

◆オーディエンス賞 ホームラン王◆

トランク機械シアター「ねじまきロボットαバクバク山のオバケ」

◆オーディエンス賞 首位打者◆

人形劇団ばべつとグース「人形劇『舌きりすずめ』ほか」

札幌劇場連絡会では、昨年度より日韓劇場祭交流事業として、(二社)韓国小劇場協会と、隔年相互公演を主とした交流事業を始めました。昨年は、韓国の劇団が札幌で公演し、今年度は、昨年の大賞受賞Yhsが、一月二〇日と二一日と大学路(ソウル)小劇場祭で「白浪っ!」の公演を行い、好評を博しました。また、今年度のTGRアカデミー生もこの来韓公演に同行、観劇・視察などを行いました。大学路は、約二一〇の小・中劇場がひしめき、いわゆる小劇場演劇だけでなく、古典、商業演劇、観光客向けの演目等数多くの演劇公演が行われている韓国有数の演劇地区です。都市の中での劇場の役割、観光で訪れた外国人も含めた観客層に向けての情

札幌演劇シーズン二〇一八年の動向

札幌演劇シーズン実行委員会 事務局長 飯塚 優子

二〇一八年と二〇一八年度の演劇シーズン上演演目を以下に列挙します。(上演順)

二〇一八冬シーズン(二〇一八年一月二〇日～二月二日)

イレブンナイン「サクラダファミリア」

報発信など、大いに学ぶべき点も多い刺激的な訪韓公演となりました。Yhs公演メンバー、TGRアカデミー生等、若き札幌の演劇人たちが、自分たちの目と体感で海外の現場を見、感じ、考えることのできる機会を提供できたことは、非常に有意義であったと思います。

TGRは、札幌で演劇公演を行う一〇の劇場で構成される札幌劇場連絡会が、主催開催しております。毎年、参加劇団はじめ各方面からのご意見を基に広報、懸賞制度の在り方など、少しずつ見直しをかけつつ開催しております。今年度は、冒頭にも記載しました参加団体数・入場者数の減少、全体として低調の評価など、次年度に向けての課題を得ました。劇団と劇場がともにつくり上げるTGR、状況の変化も鑑みながら、発展できるように、話し合いも続けてまいります。ありがとうございます。TGR2019もよろしくお願いたします。

ホエイ「珈琲法要」

※TGR札幌劇場祭2016大賞作品

円山ドジャース「誰そ彼時」

菘巻楽団「ユー・キャン・ハリ・ラブ」

※レパートリー作品

コンカリーニョプロデュース「ちゃっかり八兵衛」
高文連全道大会最優秀作品・余市紅志高校「おにぎり」

二〇一八年夏シーズン（二〇一八年七月二十八日～八月二十五日）

風蝕異人街「トロイアの女たち」

札幌座「象じゃないのに・・・」

併演・劇団青羽（from 韓国）「そうじゃないのに・・・」（象じゃないのに・・・）の原作）

イレブンナイン「12人の怒れる男」

※レパトリー作品

きまぐれポニーテール「アピカのお城」

弦巻楽団「センチメンタル」

二〇一九年冬シーズン（二〇一九年一月二十六日～二月

二十四日）

MAM「父と暮らせば」

Yhs「白浪っ!」

※TGR 札幌劇場祭 2017 大賞作品

千年王国「贖作者」

トランク機械シアター

「ねじまきロボットα」ともだちのこえ」

コンカリーニョプロデュース「親の顔が見たい」

高文連全道大会最優秀作品・

帯広北高等学校「放課後談話」

札幌演劇シーズンは、この原稿を書いている二〇一九年一月開幕の「二〇一九冬シーズン」で八年目第一五回

を迎えます。観客数は四年計画の目標一五〇〇〇人を二年前倒し（二〇一八冬終了時点）で達成し、スタート当初の二倍となりました。しかしこのまま右肩上がりで見出し続けることは簡単ではありません。続けることが大切、と同時に常に改革を加えなければ成果を積むことはできないでしょう。一〇周年に向けてどんな枠組みを作るか、この先一二年が重要なターニングポイントとなります。二〇一八年一〇月にオープンした札幌芸術劇場 hitaru クリエイティブスタジオの動向も含め、札幌の演劇全体が多彩に、元気になる道筋を模索したいと思います。

以下に特筆すべき現状をまとめます。

一．全国から客演

演劇シーズンは、他都市を拠点とする劇団の招聘公演は、TGR 受賞作品枠（冬シーズン一作品）に限られています。札幌における地場の演劇創造を盛んにすることを目的にしているからです。しかし最近の興味深い傾向として、札幌の劇団の公演に他都市劇団の俳優が招かれるケースが非常に多くなりました。弦巻楽団「ユー・キャン・ト・ハリー・ラブ」では初演以来、松本直人が演じてきた奥坂教授役を今回初めて青年団（東京）の永井秀樹が演じました。風蝕異人街「トロイアの女たち」には相良ゆみ（大野一雄舞踏研究所）が招かれ重要な役どころを締めました。札幌座「象じゃないのに・・・」には東京乾電池の川崎勇人が、イレブンナイン「12人の怒れる男」にはオイスターズ（名古屋）の平塚直隆と、富良野 GROUP の久保隆徳が出演。千年王国「贖作者」

には飛ぶ劇場（北九州）の寺田剛史が招かれました。こうした動きは、札幌の中堅劇団が東京をはじめ全国各地で公演し、その地の演劇人と交流した結果、可能になりました。再演に当たって力量ある新たなキャストを迎えることで新鮮な作品づくりが可能になると同時に、共演することによって札幌の演劇人の視野が広がるといっても貴重な機会となっています。

二、ダブルキャストや見比べプログラム

二〇一八夏シーズンで札幌座が上演した「象じゃないの・・。」は、韓国の若手作家イ・ミギョンによる「そうじゃないの・・。」を斎藤歩が日本の状況に置き換えて翻案した作品です。演劇シーズンでの上演に当たって、原作を初演した韓国の劇団青羽(チヨンウ)が来札し、シアターZOOの同じ舞台装置で日替わりで上演しました。二〇一九冬の「父と暮らせば」では三組の父と娘が、元々の組み合わせのほか、互いにシャッフルした公演も用意されています。同じ台本でも俳優が異なり、組み合わせが異なれば違ったニュアンスが生まれます。さらに高校演劇の名作でありいじめを扱った問題作「親の顔が見たい」では、同じ作品を大人チームと中高生チームが、それぞれの演出家の元で上演します。これらは演劇を観る楽しみを増し、何度も劇場に足を運んでいたたく試みとしてユニークですが、度を超すと観劇が煩雑になり目的が裏目に出るでしょう。抑制を持って取り組んでいきたいものです。

三、中規模劇場公演の定着と問題点

演劇シーズンでは、かでの2、7や教文小ホールといった中規模劇場での公演を推進してきました。一般市民になじみのある空間での公演が、観客数の伸びに貢献しています。しかし容積の大きな劇場空間を満たすには、俳優の力量も、舞台の設営にも、大きなエネルギーが必要で、また客席をいっぱいにするには最低でも一五〇〇〜三〇〇〇人程度の観客を呼ばなければなりません。このような作品を札幌で毎年二本用意し続けることは現状では至難と言わざるを得ません。従来はレパトリー作品（演劇シーズンに一回取り上げられ、再度登場する作品）が中規模劇場での上演に充てられてきましたが、今後は必ずしもそうでなくともよいことになりました。二〇一九冬に上演される「贗作者」は演劇シーズン初参加ながら、再演を待望されていた作品であり十分に大会場を活かされると判断され、教文小ホールでの公演が決ま



ユー・キャント・ハリー・ラブ
(撮影：原田直樹)



12人の怒れる男

りました。一方、小劇場がふさわしい緻密な作品で演劇シーズンのレパートリーとして上演を重ねたい作品もあります。今後はそのように、作品に応じ臨機応変に劇場

を活かし、よりよい環境で観劇していただけるようにパランスを考えたいと思います。

二〇一八年のレッドベリースタジオリ創造の深まりと新たな創造のはじまり

レッドベリースタジオリ主宰 飯塚優子

二〇一七年九月からスタートした「マンズリーピアノ」は、ピアノスト辻千絵さんのコーディネートによる多彩な内容で二〇一八年は八回開催しました。出番が増えたレッドベリーのピアノが見違えるように良い音色を響かせてくれるようになって嬉しいことです。そのほかのライブで年間一四回もの利用があり、アコースティックライブの会場として認知されてきた感があります。初めての登場は、三好紅（ヴィオラ）、板橋文夫（ジャズピアノ）、アドリアーナ（バロックバイオリン、fromスペイン）等。また九月の井上憲司（シタール）×逆瀬川健治（タブラ）のライブでは、初めて機材を設営して録音を行いました。

演劇で従来と異なる動きは、若い人たちの新しい団体の旗揚げや試演会的な公演が相次いでいます。大学や専門学校サークルではなく、複数の大学の合同公演や、SNSで呼びかけられたワークショップ、講座などで出会い、様々なところからメンバーが集まっているのだそうです。このような成り立ちの活動が今後どう発展していくのか、見守りたいと思います。

以下に、年間で特に印象に残った催しを拾って記録します。

三月に開催した「佐々木謙 新作短編朗読会」は、警察小説やミステリーで多くのファンを持つ佐々木さんが、少し違ったテイストの短編を二本、書きおろし、自ら朗読しました。辻千絵さんがニューエイジから選曲したピアノが絶妙。またここで初公開された短編は文芸誌などに掲載されています。

四月、髪立ツカサ独舞公演「馬頭卿」は、舞踏の新しい世代の登場を感じさせる素敵な公演でした。天井のトラスから太いロープで逆さ吊りになった演者の裸体。息をつめて見守るうちに、観るのではなく共に体感する者へと観客の意識が変化します。得難い創造にこの場を提供できたことは嬉しいことでした。

七月の「Pattern of life.. 菊地雅子 five work 個展」は、当麻町の社会福祉法人かたるべの森のアートディレクター・菊地さんの作品